

熱貫流率試験



一般財団法人

日本建築総合試験所

熱貫流率試験では外壁、屋根、床、窓などの構成材の断熱性を測定します。

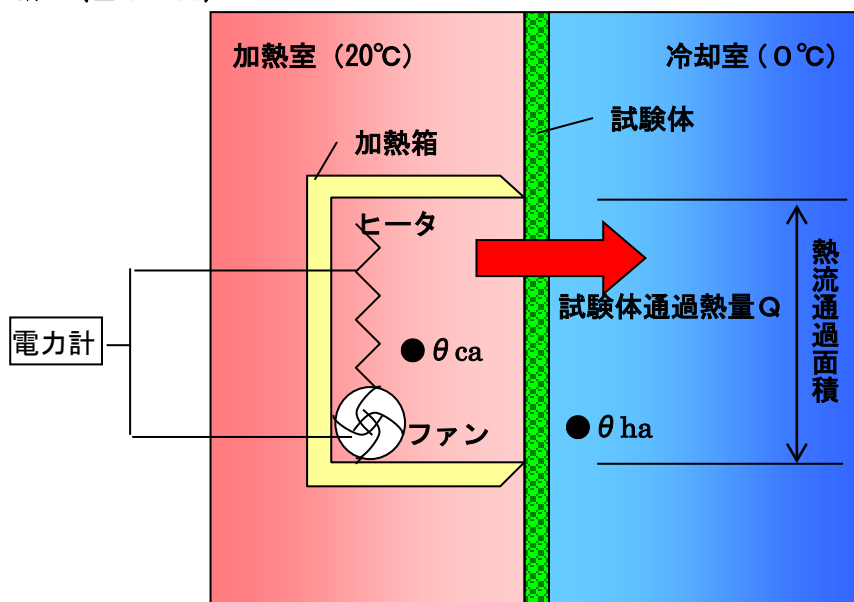
熱貫流率とは

熱貫流率（V値、単位W/(m²・K)）とは建物の壁、床、窓などの複合材料の断熱性能を表すもので、室内外両側の温度差が1K（ケルビン）ある場合、1m²の面積を何ワットの熱が通過するかを示した値です。一般的にV値が小さいほど熱を通しにくく、断熱性能が優れています。

熱貫流率試験

冷却室と加熱室の間に試験体を設置して、両室の空気温度差（ΔT）、試験体を通過した熱量（Q）を測定します。これらの値と熱流通過面積（A）から、熱貫流率を計算します。

$$V = Q / (\Delta T \times A)$$



【関連規格】JIS A 1414「建築用構成材（パネル）及びその構造部分の性能試験方法」

JIS A 4710「建具の断熱性能試験方法」

JIS A 1420「住宅用断熱材及び構成材の断熱性能試験方法」

B L規格「優良住宅部品性能試験方法書の断熱性試験」

【試験体】壁、窓、ドア、屋根、天井、床、収納庫、点検口など、垂直・水平のさまざまな試験体に対応しています。



玄関ドアの熱貫流率試験の状況